


- 3 . 欧州における代替医療実態調査

Integrated Medicine in Germany and Sweden

| | |
|--|--|
|  キーワード | 代替医療、ドイツ、オーストリア、スウェーデン |
| Key Word | alternative medicine, Germany, Austria, Sweden |

1. 調査の目的

平成 20 年度厚生労働科学研究費「統合医療による国民医療費への影響の実態把握研究」(研究代表: 京都大学大学院西村周三教授)に関連して、ドイツ、オーストリア及びスウェーデンにおける相補・代替医療の実態を取りまとめたものである。

2. 調査研究成果概要

(1) ドイツ・オーストリアにおける統合・代替医療

ドイツ

ドイツは、8,244 万人の人口を抱える連邦国家であり、国民の 90% が公的保険制度に加入している。社会保険制度を規定する法典「社会法典 V」には、特別な治療法として「ホメオパシー」、「ルドルフ・シュタイナーの人智医学」、「植物療法」の三つを規定している。この特別な治療法をもって「代替・補完医療」のすべてを代弁しているとは言い難いというのが、今回の調査で、バーデン・ヴュルテンベルク州保険医協会や製薬会社の見解であるが、実際、医師会が生涯教育による資格認証を与えている治療法をすべて合わせると鍼灸治療やクナイプ温泉療法なども含まれることになる。

ドイツでは、医師以外にも「治療師」という職種が存在し、彼らの多くが、ホメオパシーや植物療法、鍼灸治療などを行うことが法的に認められている。このような職種は、EU 域内ではドイツにしか存在していない。

なお、こうした治療師による医療術は原則的には公的保険の給付対象にはならない。慢性の腰痛や膝痛で、医師が必要と認め、指示箋を出した場合に限り、治療師による鍼灸治療や温熱療法が保険対象となりうるだけである。ECHAMP によると、ドイツ国民の 5% の男性(9% の女性)がこうした治療師の治療を受けているということである。

オーストリア

ドイツ語圏であるオーストリアにおいては、ほとんどの国民が公的保険制度に加入している。同国の特徴は、ホメオパシーなどの代替医療が公的保険制度の給付対象となっているということである。これは、隣国のドイツと比べても極めて稀なことであるが、それは歴史的な背景があって、公的保険制度も無視できない存在としてホメオパシーが存在しているということである。このような歴史的な経緯によりオーストリアではかなり一般的にホメオパシーを利用しているといえ、2001 年だけでみても 50% 以上の国民がこうした補完療法(ホメオパシー又は人智医学)を何らかの形で利用しているという調査結果もある。なお、オーストリアでは、ホメオパシーに従事するのは医師のみであり、いかなる補完的な職業もホメオパシーを含めた医療行為を施すことは厳しく規制されている。

(2) スウェーデンにおける統合・代替医療

スウェーデン(ストックホルム)の相補・代替医療利用率は高いことが報告されている。スカンジナビア諸国を横断した電話調査の結果によれば、ノルウェーでの相補・代替医療利用率が 34%、デンマークで 45%であったのに対し、ストックホルムでは 49% もの人が相補・代替医療を利用していると答えたと報告されている。様々にある相補・代替医療の中でも、ストックホルムで最も人々が活用しているのはマッサージで、これは、ノルウェーはホメオパシー、デンマークではリフレクソロジーが一番であったのに対し、特徴的である。

スウェーデンマッサージ

スウェーデンには、スウェーデンマッサージという伝統もある。これは、19 世紀の初期にスウェーデン体操の創始者でもあるリングが、医療とマッサージからなるシステムを発展させ、基礎を作った。スウェーデンマッサージは、主に富裕層を対象とした贅沢とみなされてきたが、ここ数十年には、医療面やスポーツ領域、美容面で普及した。現在はアメリカなどでも「マッサージ」手技の主流の一つとなっている。従来のヨーロッパでの古典的マッサージに比べ、より深部の筋などの組織にアプローチするもので、少量のオイルやクリームを使う。日本の指圧に比べると、よりソフトなタッチによるものである。その手技を教育する民間教育機関が日本にも存在する。

また、日帰りスパ、ホテルスパも多く存在する。そこでは、旧来のスウェーデンマッサージだけでなく、海草マッサージ、アーユルヴェーダなど、多様なメニューが提供されており、この点はアメリカ等、他国のトレンドと大きな差はない。

高齢者ケアセンターでのタクティールマッサージ

スウェーデンで開発されたマッサージの一つとしてタクティールマッサージという皮膚を丁寧になでるように行うソフトなマッサージがある。タクティールマッサージは、認知症へのケアを中心に、スウェーデンの医療・福祉現場で近年積極的に取り入れられ、効果をあげているものである。

タクティールとは、「タクティリス(Taktilis) = 触れる」という言葉から来ているが、指圧等の押すようなマッサージではなく、触れるようなやさしい刺激によるコミュニケーションに重点をおいた施術である。皮膚の接触受容体を活性化し、それが痛覚受容体よりも早く脳に信号が送られることにより痛みが抑制される。また、体全体に沈静化の作用をもたらすオキシトシンの分泌を促す効果があり、不安等にも大きな効果がある。



(日本スウェーデン福祉研究所サイトより)

<タクティールマッサージ>

特に認知症の患者のケアに高い効果をあげており、具体的には、認知症の周辺症状の緩和、認知症患者に自分の体を認識させる、結果的に QOL を向上させるという効果をもつ。静かな環境で会話も控え、皮膚と皮膚のコミュニケーションを大切に行われる。

認知症以外にも、緩和ケア、糖尿病、乳がん、認知障害児、ADHD(注意欠陥/多動性障害)患者のケアにも利用されている。また、医療機関、高齢者福祉施設のみならず、保育所などでも活用されており、子どもたちの間に信頼感をもたらすことが期待されている。

現在、そのエビデンスが集められており、効果が科学的にも証明されはじめている。現在、270 のコミュニティ(市)のうち 168 箇所認定タクティールケア師がケアを行っている。

高齢者と共に痴呆のある高齢者の不穏行動への対処は、高齢者ケアにおける大きな課題であり、以前はひもでしばって行動制限をするという抑制を行ったり、あるいは現在でも薬を使って落ち着かせるという方法がとられたり、あるいはケアワーカーの人手をかけて管理するという方法がとられてきたが、タクティールマッサージを導入することで、高齢者の精神状態が改善し不穏行動も少なくなることで、高齢者へのケアの質としても好ましく、ケアワーカーの負担も減ったという。